



# 西 潮 風

岩美西小学校  
2023年5月号  
学校だより  
児童133名



## 子どもたちの心と体にかげがえのない財産を

校長 山口 暁美

新緑が美しい季節になりました。そしてこの5月、新型コロナウイルス感染症が5類移行となります。今までどうしても内向きになりがちだった教育活動を改めていかに「ひらいていくか」が問われている時期を迎えています。

本校では、長年「地域とともにある学校」「地域に開かれた学校」でありたいと地域をフィールドとした学習を開発、展開してきました。近年では、コロナ禍による内容の検討を迫られたこともありましたが地域の皆様に絶大なる協力を得て新しいことにも挑戦できました。例えば、「地元産ラッキョウ 沖縄国頭村へ PR」（3年生）「大谷海岸の環境調査」「網代で板ワカメ作りに挑戦」（4年生）「大谷田んぼの歴史と今」（5年生）「浦富海岸の環境調査（お掃除カヤック）」「地元芸術家の方とのテラコッタ制作」（6年生）「網代音頭をみんなで踊ろう」（学習発表会）などです。

子どもたちはこれらの地域とともにある教育活動の積み重ねを通して、学校生活にリズムや勢いを持たせるとともに、地元を誇りと愛着を持ち、自立し自分らしい生き方を実現する力や、将来にわたりふるさとを思い、様々な場面でふるさとを支えていく力につながっていくと考えています。またふるさとに包み込まれる体験は、将来ではなく子どもたちの今の自己肯定感の育成にもつながり、心の安定となるはずで

特に本校は、他地域と比べても地域や保護者の皆様の子どもたちに対する愛情が深く、学校の提案に対し全面的な協力をしてくださる温かい地域でもあり、感謝の気持ちでいっぱいです。また、岩

美町「特色ある学校づくり事業」による財政的な支えがあるので、思い切り活動ができるのも大変ありがたいことだと思っています。

アフターコロナの今年度こそ、人との温かいふれあいがさらに活発にできることでしょう。コロナに十分気をつけながら、今まで活動が十分にできにくかった地域での人と人との交流がたくさんできることを楽しみにしています。地域の皆様にはご無理を申し上げることもあるかもしれませんが何卒よろしくお願いします。

私が岩美西小で担任をした25歳になる教え子たちが、ジオパークになった浦富海岸の学習のことを今でも覚えているということを知ってうれしく思いました。今教え子たちは全員岩美にいるわけではありませんし、小学校の学習だけですべてが育つわけではありません。しかし、岩美に育った彼らの心の中に地域での学習は刻み込まれていることや、岩美が誇れるところと思いそれぞれの場所で活躍していることは明らかです。

岩美西小学校6年間の教育活動で、子どもたち一人一人の心と体にかげがえのない財産を残すことと、マスクを取った子どもたちのはじけるような笑顔と元気が地域に広がればいいなあと思っています。



4年生が網代で板ワカメ作りに挑戦（R4, 5月）